

実施報告書



第三世代が考える

ヒロシマ「」継ぐ展

2017

Hiroshima - 3rd Generation Exhibition : Succeeding to History

「ヒロシマを知る教室」

戦争を体験していない世代がつくる、
参加して学べるヒロシマの企画展



会期

7月30日(日)
~ 8月6日(日)

入場無料

会場

IID世田谷ものづくり学校
東京都世田谷区池尻 2-4-5

時間

10:00~19:00
※最終日 17:00まで



主催: ヒロシマ「」継ぐ展 実行委員会

共催: 広島大学COC

後援: 世田谷区、世田谷区教育委員会、広島市、広島大学
公益財団法人広島平和文化センター、中国新聞社
朝日新聞社、東京新聞社、読売新聞社、共同通信社
FMヨコハマ、NHK広島放送局

はじめに



戦後70年の2015年からスタートしたこの企画展は、東京、みなとみらいでの開催を経て、今年で3年目になります。回を重ねるごとに輪が広がり、企画展そのものに深みが増しているのを感じています。自由研究ツールを持ち、真剣な面持ちで広島平和資料館のパネルと向き合う子どもたち。企画展をきっかけに母親と命について話しあった男子。展示パネルから被爆体験伝承者養成事業を知り、応募を決めた大学生。会場内では、来場者とスタッフが対話を行う姿もよく見られます。2017年の継ぐ展は、人対人で伝えていく「体験」を伴った参加型のイベントに力を入れています。10代から60代までの約70名が運営に携わり、広島・神奈川・仙台の教育機関のご協力を得て制作されました。多くの方々のご支援に、深く感謝いたします。企画展を通じて、若い世代が平和について考え、自分にとっての次世代に継ぐべき「何か」を探していただけましたら幸いです。 代表 久保田 涼子

イベントのご紹介

来場者参加型のトークショーやワークショップ

※場所の明記がないイベントはIIDギャラリー内で開催いたします。

7/30



オープニングイベント 映画「この世界の片隅に」 バリアフリー上映

オープニングイベントとして「この世界の片隅に」のバリアフリー上映(日本語字幕・音声ガイド付)を行います。

【場所】110 Presentation Room 【日時】7月30日(日)
1回目 12:15開場 12:30上映 ※小学生親子限定
2回目 15:15開場 15:30上映
【参加費】無料 【定員】各回50名(抽選)
【協力】(株)東京現像所 プロモート事業部
東京テアトル株式会社、Palabra株式会社

7/31



消しゴムはんこ作家 津久井智子さんの ヒロシマをモチーフにした はんこ作りワークショップ

折り鶴やキョウチクトウ、灯ろう流しといった、ヒロシマをモチーフとした消しゴムはんこをつくるワークショップ。バッグに捺して、オリジナルグッズとしてお持ち帰りいただけます。

【場所】104 Meeting Room1 【日時】7月31日(月)
1回目 11:00~ 2回目 14:00~(各回1時間)
【講師】津久井智子(消しゴムはんこ作家)
【参加費】1,500円(バッグ材料費込 大人・子供同一料金)
【定員】各回 20名(予約制)

8/1



被爆アオギリのお話を聞き、チョークで 路上にアオギリの葉を描こう

広島平和記念公園に奇跡的に再生した被爆アオギリの木があるのをご存知ですか?絵本「アオギリのねがい」のお話の後、チョークでその姿を路上に再現します。沢山の葉っぱを描いて平和の木を育てましょう。※小雨決行、荒天中止

【場所】IID ギャラリー内 / 正面玄関横
【日時】8月1日(火) 1回目 11:00~ 2回目 14:00~
【共催】路上芸術祭実行委員会
【講師】松本かなこ(ストリートペインター)
【読み聞かせ】芳晴
【参加費】500円(大人・子供同一料金)※チョーク代含む
【定員】各回20名(予約制)

企画展内容

見て学ぶパネルや写真などの常設展



「絵で読む広島の原爆(福音館書店)」 原画展

「やこれっしゃ」や「がたごと がたごと」の絵本作家 西村繁男さんの作品の原画を展示(一部レプリカ)。第43回産経児童出版文化賞の受賞作です。



被爆建物から見るヒロシマ写真展

現在も広島に残る被爆建物を70年前の写真と同じアングルで撮影しました。当時と今が比較できる写真展。

写真：及川誠・山本早苗(2015)
平和記念資料館(所蔵・提供)



ヒロシマの記憶を継ぐ人 インタビュー展示

被爆者の方をはじめ、広島市被爆伝承者養成事業を卒業された方など計22名を取材したインタビューを冊子、ミニパネルで展示。



平和記念資料館収蔵資料 「消えた家族」

広島平和記念資料館収蔵資料である原爆で一家全滅した鈴木六郎さんの家族の悲劇を伝える「消えた家族」展の一部を展示



8/1,2

ヒロシマピースボランティアと 展示をまわろう

広島平和記念資料館・広島平和記念公園をヒロシマピースボランティアとして8年間ガイドをしている榎原 泰一さんが被爆の実相(原子爆弾投下によるさまざまな影響)について展示資料を周りながら解説を行う約45分のツアーです。

【日時】8月1日(火) 1回目 12:30 2回目 15:30
【参加費】無料
【ゲスト】榎原 泰一(ヒロシマピースボランティア)
【定員】各回15名(予約制)

被爆体験伝承者 榎原 泰一さんと 対話をしよう

2015年に伝承者の資格を取られた東京都在住の広島市被爆伝承者養成事業1期生 榎原 泰一さんが、被爆の実相(原子爆弾投下によるさまざまな影響)や伝承者への応募のきっかけ、語り継ぐことを決めた被爆者の方のお話をしてください。

【日時】8月2日(水) 11:00 【参加費】無料
【ゲスト】榎原 泰一
(被爆体験伝承者:(財)広島平和文化センター委嘱)
【定員】20名(予約制)



8/4

被爆体験伝承者 石綿浩一さんと 対話をしよう

2016年に伝承者の資格を取られた神奈川県在住の広島市被爆伝承者養成事業2期生 石綿浩一さんが、被爆の実相(原子爆弾投下によるさまざまな影響)や伝承者への応募のきっかけ、語り継ぐことを決めた被爆者の方のお話をしてください。

【日時】8月4日(金) 1回目 11:00 2回目 14:00
【参加費】無料
【ゲスト】石綿浩一
(被爆体験伝承者:(財)広島平和文化センター委嘱)
【定員】各回20名(予約制)



8/6

クロージングイベント 語り部 梶本淑子さんと対話をしよう

国内外で被爆証言活動を続けてこられた梶本淑子さんを広島からお招きし、対話を行います。その後、参加者全員で広島で流すとうろうに想いを書きます。

【日時】8月6日(日) 15:00 【参加費】無料
【ゲスト】梶本淑子
(被爆体験証言者:(財)広島平和文化センター委嘱)
【定員】30名(予約制)



8/5

語り部 川本省三さんと対話をしよう

原爆孤児の体験と被爆証言を続けてこられた川本省三さんを広島からお招きして対話を行います。

【日時】8月5日(土) 1回目 11:00 2回目 14:00
【参加費】無料
【ゲスト】川本省三
(被爆体験証言者:(財)広島平和文化センター委嘱)
【定員】各回20名(予約制)



8/2-5

夏休み自由研究サポート教室

小学生高学年以上を対象にした夏休みの自由研究をつくるワークショップ。ヒロシマをテーマにした自由研究キットをもとにスタッフがその場で完成出来るようサポート致します。

【日時】8月2日(水)、3日(木) 1回目 13:00 2回目 15:30
8月4日(金)、5日(土) 1回目 12:30 2回目 15:30
【参加費】500円(模造紙、折り紙などの材料費込)
【定員】各回 5名(予約制)

一部の企画は予約・抽選制です。
ご予約は継ぐ展Webサイト
<http://tsuguten.com/event/>
もしくは電話090-6934-2618まで



※PC・スマートフォン
いずれも利用可



広島関連書籍 絵本の読み聞かせコーナー

「はだしのゲン」、「図録 ヒロシマを世界に」など広島に関連する書籍、絵本、漫画、写真集が自由に読めるコーナー。絵本の読み聞かせボランティアが11時～14時まで常駐。



とうろうに込めるメッセージ

平和へのメッセージを込めたとうろうを仮想空間の川に流し、8月6日の広島へ届けるプロジェクト。

Sound : 鎌田まみ



広島原爆資料パネル・石材展示

被爆の実相を学べるパネルと、原爆で破壊された建物の瓦礫や石材の展示。

パネル : 広島平和記念資料館(提供)
被爆石材 : 嘉陽礼文 (広島大学研究員 提供)



teppan kitchen SETAGAYA × 継ぐ展 コラボカフェメニュー

広島のおばあちゃんが心を込めて作った野菜をふんだんに使用した限定スペシャルメニューを会期中にご用意します。

東京

【本展会場】

IID世田谷ものづくり学校

<電車>

東急田園都市線「池尻大橋」駅下車 徒歩約10分

東急田園都市線／東急世田谷線「三軒茶屋」駅下車 徒歩約15分

<バス>

【渋谷方面】

バス停「自衛隊中央病院入口」下車 徒歩約5分

渋谷駅バスターミナル東急バス乗り場番号(西口)

43番▶渋谷→下馬1丁目循環(渋31系統)

44番▶渋谷→野沢龍雲寺循環(渋32系統)

42番▶渋谷→多摩川駅・都立大学北口循環(渋33系統)

42番▶渋谷→三宿経由、都立大学駅北口・東京医療センター行き(渋34系統)

広島

広島平和記念公園内 原爆の子の像付近 [継ぐ展ブース]

8/6(日) 12:00~

CLiP HIROSHIMA [広島トヨペット1F]

〒730-0053 広島県広島市中区 東千田町1丁目1番18号

7/31(月)~8/6(日) 10:00~20:00

協賛・協力

協 賛: 株式会社ファンブ, 株式会社DMC広島, 日下医院
Palabra株式会社

協 力: 関東学院大学, デジタルハリウッド STUDIO
Peace Porter Project, とうろう流し実行委員会
HIROSHIMA SPEAKS OUT, みなとみらいごほん部
路上芸術祭実行委員会, CLiP HIROSHIMA
teppan kitchen SETAGAYA, 世田谷区立平和資料館
(株)東京現像所 プロモート事業部, 東京テアトル株式会社

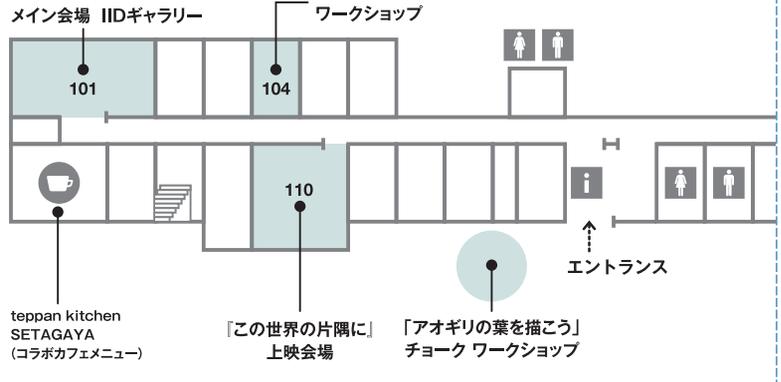
IID世田谷ものづくり学校

〒154-0001 東京都世田谷区池尻 2-4-5
<http://setagaya-school.net/place/>

※施設には駐車場がありませんので、お車での来場はご遠慮ください。



施設図



仮想空間にあなたの想いを込めた
灯ろうが流せます。



<http://message.tsuguten.com>

※PC・スマートフォン、いずれも利用可

2018年仙台開催に向けて 賛助金・寄付金ご協力をお願い

来年の継ぐ展は、仙台で開催予定です。企画展の資材の輸送費、準備や運営のためのスタッフの交通宿泊費などは、皆様からの賛助金・寄付金で補われています。

賛助金・寄付金にご協力いただける方には参加要項をお渡ししております。ヒロシマ「継ぐ展」実行委員会までお問い合わせください。



<http://tsuguten.com/>

<https://www.facebook.com/tsuguten/>

https://twitter.com/h_tsuguten

<https://www.instagram.com/tsuguten/>

企画展全体に関するお問い合わせ先

TEL. 080-1916-8638 (継ぐ展実行委員会)

MAIL. tsuguten2017@gmail.com

開催場所



**IID 世田谷ものづくり学校（本展）、CLiP HIROSHIMA（サテライト会場）、広島灯ろう流し会場
継ぐ展ブース（8/6のみ）の3か所で開催**

東京世田谷区にある元池尻中学校の校舎を利用した施設 IID 世田谷ものづくり学校を利用して本展を開催。

広島では、8月6日の広島灯ろう流し会場 継ぐ展ブースと、今年初めて広島 東千田町にある CLiP HIROSHIMA

（広島トヨペット 1F）をサテライト会場とし、2年分の継ぐ展の歴史や、展示物の一部を公開。イベントも開催しました。



組織



広島大学、宮城学院女子大学、関東学院大学、デジタルハリウッド受講生含む約 70 名が参加

3年続けて参加している30代中心メンバーを含め、12才から60代まで、中国・マラウイ国籍を含む約70名が企画制作に参加。今年も、教育機関と連携を行いボランティアを募集しました。また、来年のボランティアリーダーを担う大学生を全国から公募し、宮城学院女子大学の門馬礼音さんが特待生として選出され、広島取材や制作に参加しました。展示期間中にボランティア希望を申し出る若者も多く、来場者の方が次の日にはスタッフとして参加する一面もありました。



ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー取材 (3月・4月)

3月と4月の2回に分けて広島へ行き、被爆者や被爆体験伝承者など6名のインタビュー取材を行いました。仙台、東京、神奈川、京都、大阪から集まった20代～40代の男女あわせて20名での取材となりました。参加者からは、「実際に広島に来てみないとわからなかったことがたくさんあった。」「被爆者の方から直接話を聞いて今までと考え方が変わった」「原爆についての知識や、(話を聞いて辛いと感じる)時間をみんなと共有できてよかった」との声がありました。実際に広島に足を運び、自分の目で見聞きし、肌で感じることの大切さを感じた取材となりました。



インタビュー協力：被爆者 川本省三さん、中西巖さん、栗原明子さん、元ソーシャルワーカー 若林節美さん、ペンネーム さすらいのカナブンさん、被爆体験伝承者候補生 西岡幸子さん 取材場所提供：AGRI (広島 袋町)

制作



広報や展示物制作 (4月~7月)

継ぐ展に関連するWEBサイトや紙媒体の制作、SNS 広報を、デジタルハリウッド STUDIO OJT メンバー (在校生・卒業生) 15 名で行いました。また、展示物の制作を東京・広島継ぐ展メンバー有志 10 名と CLiP HIROSHIMA の社員の皆さんで制作しました。インタビューの英訳は HIROSHIMA SPEAKS OUT さんにご協力いただきました。



継ぐ展オフィシャルウェブサイト
<http://tsuguten.com/>

広島を継ぐ人インタビュー
<http://tsuguten.com/interview/>

映画「この世界の片隅に」
バリアフリー上映
<http://tsuguten.com/konosekai/>

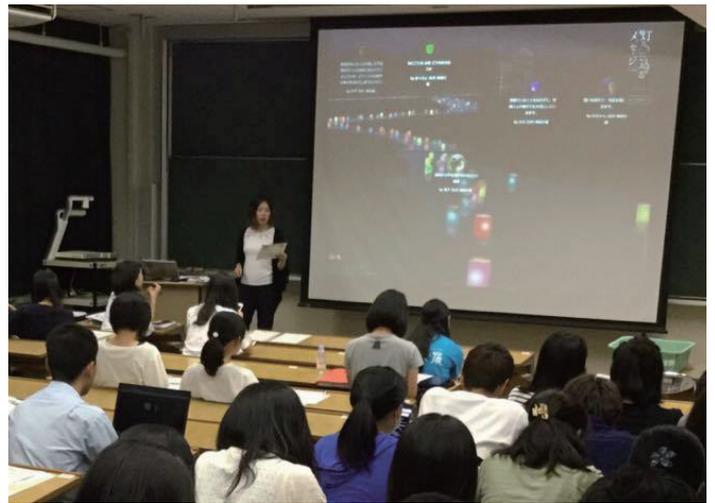
夏休み自由研究ツール
<http://tsuguten.com/kenkyu/>

どうろうに込めるメッセージ
<http://tsuguten.com/message/>



広島大学で「ひろしま平和共生リーダー概論」の1講座を担当

広島大学で1年生に向けて行われる「ひろしま平和共生リーダー概論」の2コマを、継ぐ展代表の久保田涼子がゲスト講師として担当しました。活動のきっかけや概要を説明し、ボランティアで活動しているスタッフの声を共有しました。講義の最後には、継ぐ展のコンテンツでもある「とうろうに込めるメッセージ」を学生さんたちに体験して頂き、自分にできる平和へのアクションを考えて頂きました。



設営



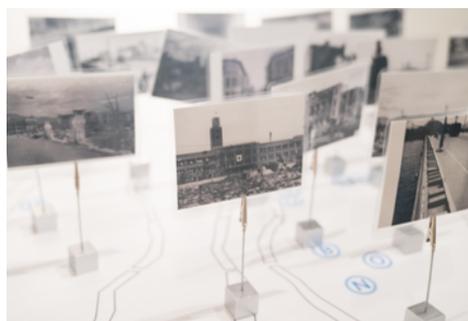
設営 7/29 (世田谷)、7/30 (CLiP HIROSHIMA)

世田谷会場の設営は継ぐ展メンバー 21 名、広島会場は CLiP HIROSHIMA 社員、
広島大学関係者と有志で設営を行いました。



被爆建物から見るヒロシマ写真展

現在も広島に残る被爆建物を70年前の写真と同じアングルで撮影。被爆前の広島の写真を地図の上に配置し、当時と今を比較できるコーナーを設置しました。写真：及川誠・山本早苗（2015）、平和記念資料館（所蔵・提供）



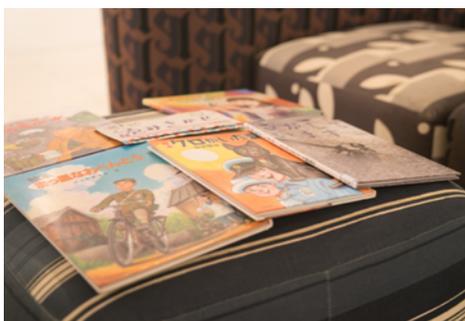
『絵で読む広島原爆（福音館書店）』原画展

第43回産経児童出版文化賞の受賞作。絵本作家 西村繁男さんの作品の原画を展示。
会場に来られた西村さんが来場者の方に絵本の解説を行う場面もありました。



広島関連書籍コーナー

「はだしのゲン」、「図録 ヒロシマを世界に」など広島の前爆に関連する書籍、絵本、漫画、写真集が自由に読めるコーナー。スタッフによる読み聞かせも行われました。



常設展



広島原爆資料パネル・石材展示

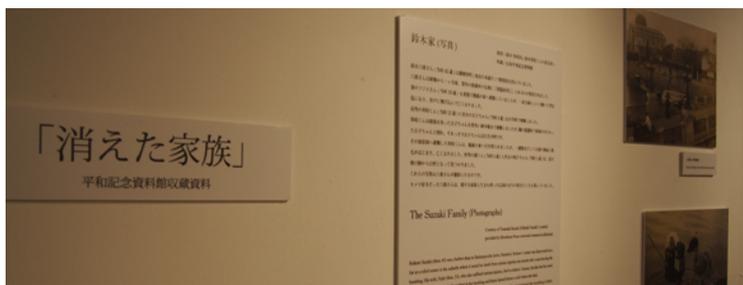
被爆の実相を学べるパネルと、触れることができる原爆で破壊された建物の瓦礫や石材の展示を行いました。

パネル：広島平和記念資料館（提供） 被爆石材：嘉陽礼文（広島大学研究員 提供）



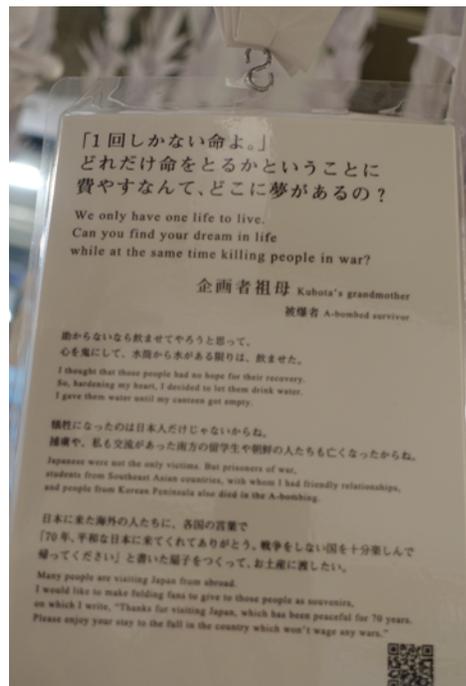
平和記念資料館収蔵資料「消えた家族」

広島平和記念資料館収蔵資料。原爆で一家全滅した鈴木六郎さんの家族の悲劇を伝える「消えた家族」展の一部を展示しました。広島から対話に来られた被爆者の川本省三さんが写真をご覧になり「ここに写っているのは自分の同級生です。」と驚かれた時、モノクロの写真の中の人々が実際に生きていらっしまったという事実を改めて感じることができました。



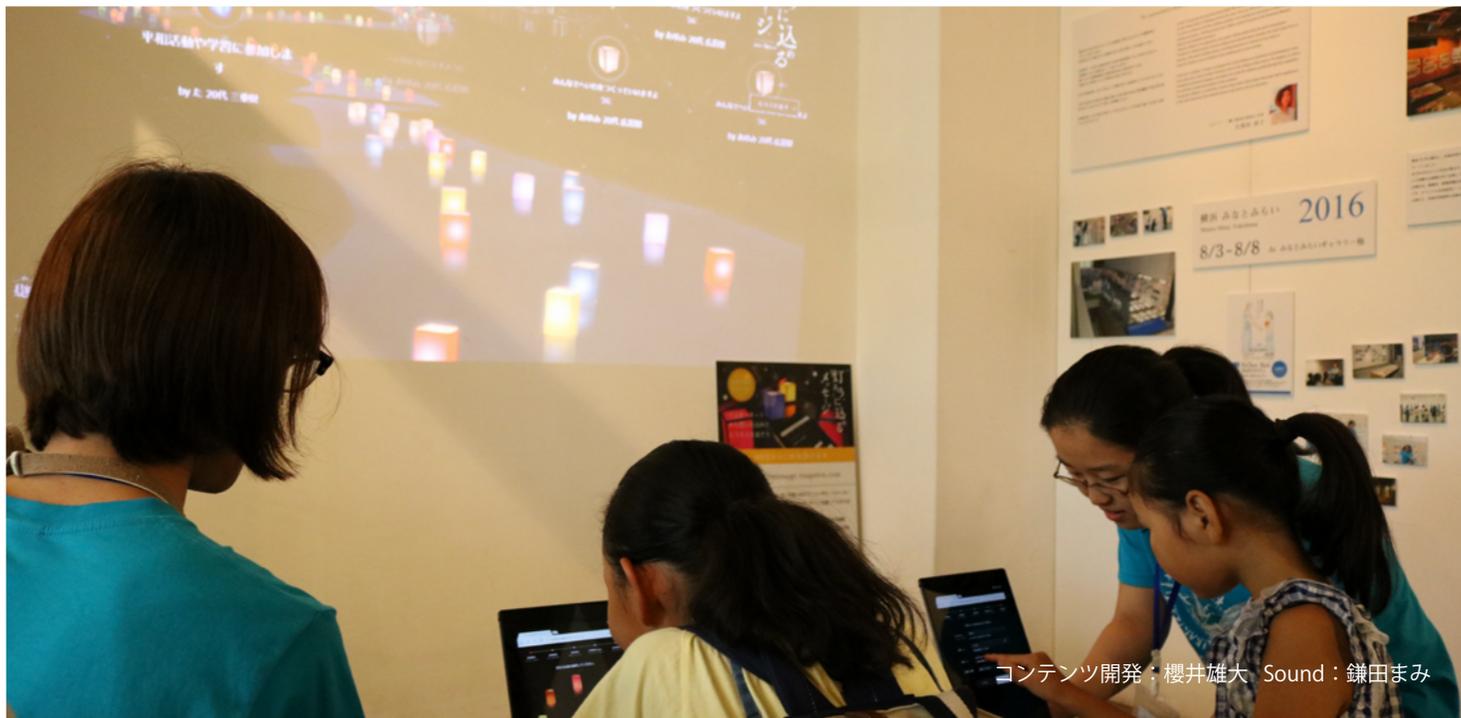
ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー展示

被爆者の方をはじめ、広島市被爆伝承者養成事業を卒業された方など計 22 名取材したインタビューを冊子、ミニパネルで展示しました。



とうろうに込めるメッセージ

平和へのメッセージを込めたとうろうを仮想空間の川に流し、8月6日の広島へ届けるプロジェクト。世田谷の会場やwebサイトから集められたメッセージは、8月6日の広島とうろう流し会場やCLIP HIROSHIMA ハイビジョンへ投影されました。



コンテンツ開発：櫻井雄大 Sound：鎌田まみ



常設展



継ぐ展の歴史 / ボランティアスタッフの声

過去2回行われた継ぐ展の軌跡とコンセプトを、会場入り口に写真と文章のパネルを組み合わせせて展示しました。また、携わるボランティアスタッフがなぜこの企画展に携わろうと思ったのかという想いを広島大学の小川歩美さんが中心となって集め、モビールで展示しました。



8/2 (水)～8/5 (土) 夏休み自由研究サポート教室&スタンプラリー

小学生高学年以上を対象にした夏休みの自由研究をつくるワークショップ。ヒロシマをテーマにした自由研究キットをもとに継ぐ展スタッフが完成までサポートを行いました。近隣の小学校に通われている子供たちを中心に各回満席となり、テーマへの関心の高さを感じました。スタンプラリーは世田谷区立平和資料館、セレクトショップ ettone、teppan kitchen SETAGAYA 様のご協力の元、開催しました。



イベント

継ぐ展 HIROSHIMA

7/31 (月) 消しゴムはんこ作家 津久井智子さんのヒロシマをモチーフにしたはんこ作りワークショップ

午前と午後あわせて約 15 名の方が、原爆ドームや鳩、夾竹桃など広島に関連する図版の意味を学びながら消しゴムはんこを彫り、トートバッグや巾着にハンコを捺して継ぐ展グッズとして持ち帰られました。参加者の一人は「消しゴムはんこがきっかけでこの企画展を知ることが出来ました。このような取り組みはとても大事だと思いますし、ずっと続けていってほしいと思います。」と仰っていました。



継ぐ展 消しゴムはんこの図版の意味

Designed by 津久井智子

原爆ドーム
 爆心地から 160 メートルにある原爆ドームは、元々チエコの建築家サン・レツル氏によって設計された広島原爆地帯の中心にありました。爆風がほとんど被害を免れたため、本館の中心部は否定的に破壊されたものの、館内にいた人はすべて即死しています。1996 年、ユネスコの世界遺産一覽表に登録されました。

被爆アオギリ
 爆心地から約 1.3km 離れた広島運送局の中庭にあったアオギリは、熱線と爆風をともに受けてはれ木同然になりました。翌年の春になって芽吹き、人々に生きる勇気を与えました。1973 年、平和記念公園内へ移植され、原爆の被害を無量のうちに語り続けています。

夾竹桃
 原爆投下後、75 年間草木も生えないといわれた広島市の地にいち早く咲いた花です。復興へ向けて働いていた市民に希望をそそいでくれました。広島市の市の花として指定されています。

鳩
 平和の象徴と言われています。毎年 8 月 6 日に行われる平和記念式典では広島市長の平和宣言の後に「放鳩」が行われます。そこで放たれる鳩は、1947 年から市民たちが育成に協力しています。

折り鶴
 2 歳の時難病した宮崎木崎子（ササキキサダコ）さんは 10 年後に突然白血病と診断され、8 か月間の闘病生活の後、短い生涯を終えました。崎子さんは「鶴を千羽折ると病気が治る」と信じ、薬の飲み合わせなどで 1,300 羽以上の鶴を折り続けました。その話は各国に翻訳され、絵本にもなっています。

どうろう流し
 どうろう流しは、原爆投下から数年後、親族や知人を受った遺族などが遺書と供養のため、手作りのとうろうを川に流したのが始まりと言われています。とうろうには、亡くなった方の名前と、遺した人の名前を書き込むのが一般的です。しかし、最近では「平和への思い」を書き光景も目立つようになってきました。現在、「聖書」と「ピースメッセージ」の意味を持って、毎年 8 月 6 日に原爆ドームのほとりの光沢川で行われています。

路面電車
 原爆投下後からわずか 3 日後、広島電鉄技術者の懸命な復旧作業で路面電車は運行を再開しました。その夜は人々の心に希望を与えました。現在は 2 両の被爆電車が広島市を走っています。



イベント



8/1 (火) 被爆アオギリのお話を聞き、チョークで路上にアオギリの葉を描こう

シンガーソングライター/ナレーターの芳晴さんが、生演奏と映像をあわせて「絵本 アオギリの願い」を朗読され、その後、昨年もイベントを共につくってくださったストリートペインターの松本かなこさんが中心となり、来場者と共に会場入り口に被爆アオギリの葉をチョークを使って描いていきました。



8/1 (火) ヒロシマピースボランティアと展示をまわろう

広島平和記念資料館・広島平和記念公園をヒロシマピースボランティアとして8年間ガイドをしている榎原 泰一さんが展示資料を周りながら解説を行っていただきました。4年生の参加者が、聞いたことを一生懸命メモしているのが印象的でした。以下は参加者の感想です。

「説明もわかりやすく、榎原さんの優しいお人柄がにじみ出ており、参加してよかったと思いました。ヒロシマや原爆について知らなかったこともあり、これを機に自分でももう少し勉強してみようと思います。」



8/2 (水) 被爆体験伝承者 榎原 泰一さんと対話をしよう

前日に引き続き、東京都在住の広島市被爆伝承者養成事業1期生 榎原 泰一さんが、被爆の実相や伝承者への応募のきっかけ、語り継ぐことを決めた被爆者の方のお話をスライドを交えながらわかりやすくお話ししてくださいました。



8/4（金）被爆体験伝承者 石綿浩一さんと対話をしよう

2016年に伝承者の資格を取られた神奈川県在住の広島市被爆伝承者養成事業2期生石綿浩一さんが、被爆の実相や伝承者への応募のきっかけ、語り継ぐことを決めた被爆者の方のお話をしてくださいました。石綿浩一さんのイベント午前の部は、お子さまに多くご参加いただきました。午後の部では、県外から来られた教員の方がこれから修学旅行で広島に生徒を引率されるということで真剣にメモを取られていました。「たまたま訪れた企画展でいいお話が聞けました」と仰っていました。



8/5 (土) 語り部 川本省三さんと対話をしよう

原爆孤児の体験と被爆証言を続けてこられた川本省三さんを広島からお招きして対話を行いました。お子さまからご年配の方まで幅広い年齢層の方が真剣に耳を傾けていました。手話通訳を交えて、原爆の後、孤児になった子どもたちはどう生きていったのかというお話を中心に語っていただきました。



8/6（日）クロージングイベント 語り部 梶本淑子さんと対話をしよう

継ぐ展最終日のクロージングイベントでは、国内外で被爆証言活動を続けてこられた梶本淑子さんを広島からお招きし、対話を行いました。子ども、大人あわせて約50名の方が梶本さんの被爆体験に耳を傾けました。「8月6日の大事な日に、どうして広島にいないのかと周りの人たちから尋ねられましたが、こうして東京で、こんなにも熱心に聞いて下さる沢山の方々の前でお話することが出来て、来た甲斐があったと思っています。今日聞いたことをぜひ家族や身近な人たちと話し合ってください。」お話の最後に梶本さんが仰ってくださった言葉は大変重みのある言葉でした。



イベント



会期中 teppan kitchen SETAGAYA × 継ぐ展 2017 コラボカフェメニュー

会期中、継ぐ展会場正面の teppan kitchen SETAGAYA さまとコラボを行い、「広島のおばあちゃんが心を込めてつくった野菜をふんだんに使用した広島野菜カレー」と「瀬戸田レモンを使ったレモンスカッシュ」を期間限定メニューとして提供しました。

企画協力：teppan kitchen SETAGAYA、みなとみらいごはん部、及川千尋

野菜協力：日原 治子、森本由起子 フライヤーデザイン：高見 綾花



広島会場

継ぐ展

7/31 (月) ~ 8/6 (日) CLiP HIROSHIMA

サテライト会場の CLiP HIROSHIMA では、東京、みなとみらいで行われた2年分の継ぐ展の歴史や、展示物の一部を展示しました。CLiP VISION という大きなモニターには仮想空間にタブレットからとうろう流しを行う「とうろうに込めるメッセージ」を展開。会期中は、子供たちへの自由研究ツールの配布や継承をテーマにしたトークイベントを行いました。



広島会場

8/3 (月)、8/5 (土)、8/6 (日) CLiP HIROSHIMA イベント

8月3日(木)は継ぐ展代表久保田涼子が継ぐ展の企画から制作までを語るイベントを行い、8月5日(土)はひろしまジーン大学と共催で広島市伝承者養成事業1期生の山岡美知子さんの講話イベントを行いました。また、最終日の8月6日(日)には、広島市伝承者養成事業1期生の保田麻友さんの講話イベントを開催し世田谷会場でもネット動画で中継しました。来場者の方からは「大人になって久々に平和学習を行った。小さい頃からの学習で知っているつもりになっていたが、実は知らなかったことが沢山あると気づいた。」「来年同じような企画を行うのであれば、ぜひ広島以外の人たちが何を考えているのかを共有して欲しい。それが広島に住んでいる人にとっての新しい気づきとなると思う。」など感想を頂きました。



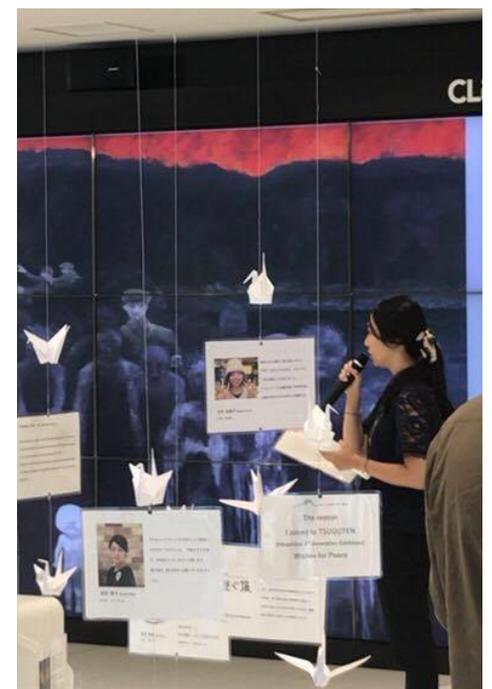
親子で参加しながらヒロシマを学ぼう！イベントタイムスケジュール

会期中
子どもたちに夏休み自由研究ツールを配布＆スタンプラリー開催！
3人のお話の中にも、自由研究の質問の答えがあるよ！

8/3 (木) 14:00 - 19:00
継ぐ展代表 久保田涼子 からお話を聞こう
「継ぐ展をつくったきっかけと東京・横浜会場での来場者の声」

8/5 (土) 17:00 -
広島市伝承者養成事業1期生 山岡美知子さんからお話を聞こう
「語り継ぐヒロシマ」
Presented by ひろしまジーン大学

8/6 (日) 14:00 -
広島市伝承者養成事業1期生 保田麻友さんからお話を聞こう
「ヒロシマを繋ぐ」
入場無料



8/6 (日) 広島とうろう流し会場 継ぐ展ブース

3年目となる広島とうろう流し会場継ぐ展ブースは、株式会社ファンブ・広島大学・有志ボランティアからの15名で設営と運営を行いました。ボランティアメンバーの国籍は日本、中国、マラウイなど様々で、英語が話せるメンバーも多くいました。来場者は昨年と比べて海外の方に沢山ご来場いただきました。英訳されたパネルをじっくり読まれ、仮想空間にとうろうを流されていました。



メディア



メディア掲載・出演一覧

- 新聞**
- ・中国新聞社 4/16、7/20 朝刊
 - ・朝日新聞社 8/7 朝刊、中高生新聞
 - ・毎日新聞社 8/2 夕刊
 - ・毎日新聞社「布施広の地球議」朝刊コラム 8/11、8/18
 - ・しんぶん赤旗 8/19



- ラジオ
テレビ**
- ・NHK 広島放送局
 - ・広島ホームテレビ
 - ・TSS テレビ新広島
 - ・NHK ラジオ第1放送
 - ・RCC 中国放送
 - ・むさしのFM



- 情報誌**
- ・広島大学広報誌『HU-plus』



- WEB**
- ・広島大学ウェブサイト
 - ・東北学院大学ウェブサイト
 - ・キッズイベント
 - ・アーティスト×こども
 - ・JR おでかけネット
 - ・子供とお出かけ情報「いこーよ」



- ・ウォーカープラス
 - ・オールイベント
 - ・学研キッズネット
 - ・じゃらん
 - ・goo 地図
 - ・Yahoo! 口コミ
 - ・えきねっと
 - ・Peace Week2017
 - ・朝日新聞デジタル
 - ・ALL EVENT
- 他多数

東京のクリエイターら 中区 31日から企画展

戦争を体験しない世代が、8月31日まで、中区の「平和のメッセ」を継ぐ時代に、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。企画展は、平和のメッセのコンセプトを継ぐという目的で、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。企画展は、平和のメッセのコンセプトを継ぐという目的で、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。

広島会場のパネル展示を考える 久保田代表（左端）たち

「継ぐ展」は、平和のメッセのコンセプトを継ぐという目的で、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。企画展は、平和のメッセのコンセプトを継ぐという目的で、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。

「継ぐ展」の地球議

「継ぐ展」の地球議は、平和のメッセのコンセプトを継ぐという目的で、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。企画展は、平和のメッセのコンセプトを継ぐという目的で、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。

「継ぐ展」の地球議は、平和のメッセのコンセプトを継ぐという目的で、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。企画展は、平和のメッセのコンセプトを継ぐという目的で、広島市中区から企画展「継ぐ展」を開催する。

聴覚に障害のある来場者の方より

昨日午後のイベントでは手話通訳者を同行させていただきました。

イベントの際は川本さん、久保田さんをはじめ皆様のご理解とご協力のおかげで、心地よい空間の中貴重な語りを拝聴することができました。今回を機に、全国の聴覚障害高齢者を対象に、戦争体験談をヒアリングし、記録に残していきたい、と強く思うようになりました。今知人にも声をかけ、動き始めようとしているところです。

今後も今回のようなイベントをどんどん続けていって欲しいと思います。陰ながら応援しておりますので、頑張ってください！誠にありがとうございました。

4日間会場へ通われた小4のお母様より

今回の展示会では娘が足繫く通わせて頂いたようで、大変お世話になりありがとうございました。

娘はとても怖がり、「この世界の片隅に」を観に行くと伝えた時も「怖い？」とやや腰が引けてたのですが、映画をきっかけに原爆や平和に関心を持って、自分でも積極的に知ろうとするようになったことを、親としてとても嬉しく思っています。どのように自由研究を仕上げていくのか、そばで見守りたいと思います。

私も、被爆者の川本さんのお話を聞いたり、ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビューを読んだりして、色々新しい事を勉強させて頂きました。来年くらいには娘と一緒に広島に行きたいと思っています。

この先も継ぐ展は続いていくという事ですので、さらに多くの人達にヒロシマや原爆を知ってもらえるよう、陰ながら応援させて頂きます。本当にありがとうございました。

広島会場のイベントに参加された方より

広島会場で親子で参加させて頂きました。語り部の山岡さんのパワポ資料は手描きイラスト満載の力作で、非常にわかりやすく、是非ネットでも公演の様子を配信して頂き沢山の方に聞いて頂きたいと思いました。

私の子供の頃は8月6日は登校日で語り部さんの話を毎年聞かせて頂いたものです。小学生の息子は、初めての体験ができてとても良かったです。企画展関係者の皆様にも感謝です。ありがとうございました。

その他の声

- ・素晴らしい出会いでした。第二世代としても、もっと、伝えなければいけないと認識を新たにしました。
- ・数日後、子供を連れて広島に行くので、事前学習と思って来ました。来ることができてよかったです。
- ・こんな企画展があるなんて知らなかった。子供が学校でチラシを持ってきて知りました。活動を応援しています。
- ・広島はなかなか遠いけれど、近くでこういった企画があって助かった。
- ・広島平和記念資料館に行ったとき、人が沢山いて落ち着いて見るができなかったけれど、今回改めてゆっくり内容を知ることが出来ました。
- ・若い人たちが中心となって運営しているところがよかったです。居心地が良い空間でした。

2017年継ぐ展来場者数計 1100名

(世田谷会場 710名、サテライト会場 CLiP HIROSHIMA 90名、広島とうろう流し継ぐ展ブース 300名)

代表：久保田涼子

会場デザイン：及川誠、新田隆浩 / CLiP HIROSHIMA

企画補佐：野元綾希子、堀内崇子、アベケイスケ

経理監査：音谷麻子

【広報】

■フライヤー：泉雅史（イラスト）

Baobab Design Company（デザイン）

■オフィシャルサイト：西田優香

■SNS 広報：中島愛美

■世田谷広報：佐藤ひとみ

■英訳協力：Yifan Feng

【企画・制作】

■とうろうに込めるメッセージ

開発：櫻井雄大 音楽制作：鎌田まみ

■ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー

取材：久保田涼子、野元綾希子、及川誠、アベケイスケ、桑原 佐知子、劉一桐（広島大学）、閻慧（広島大学）、小川歩美（広島大学）、堤中愛、本末敬祐、中島愛美、堀内崇子、平松あゆ子、西田優香、安藤弘晃、館向証子、門馬礼音（宮城学院女子大学）、釣本亜希、竹林紗里

文字起こし：堀内崇子、大瀧美和、平松あゆ子、門馬礼音、小川歩美、中島愛美

英訳：HIROSHIMA SPEAKS OUT

WEB サイト：デジタルハリウッド STUDIO OJT チーム

志田智子、横井智和、館向証子、平松あゆ子、中川一毅、本末敬祐、松嶋義敬、山口典音

展示制作サポート：奥田剛、石川裕利、久保田芳文



■映画「この世界の片隅に」上映

D：野元綾希子

協力：(株)東京現像所 プロモート事業部、東京テアトル株式会社、Palabra 株式会社

WEB サイト：堀内崇子、横井智和、小林陽子

スタッフ：鈴木康弘、山上庄子 (Palabra 株式会社)、

中島愛美、中川一毅、本末敬祐

MC：福岡りえ

■消しゴムはんこ作家 津久井智子さんのヒロシマをモチーフにしたはんこ作りワークショップ

協力：津久井智子

■被爆アオギリのお話を聞き、チョークで路上にアオギリの葉を描こう

協力：松本かなこ（路上芸術委員会）/ 芳晴

■夏休み自由研究サポート教室

ツールデザイン：アベケイスケ

消しゴムはんこ：津久井智子

スタッフ：アベケイスケ、坂本晴香、辰小夜子、辰綾乃、門馬礼音、竹内彩乃、大瀧美和、大瀧理紗、本末敬祐



■teppan kitchen SETAGAYA× 継ぐ展コラボカフェメニュー

協力：teppan kitchen SETAGAYA、みなとみらいごはん部、
里見 浩子、及川 千尋

野菜提供：森本 由起子、日原 治子（企画者祖母）

フライヤー：高見 綾花

■語り部 川本省三さん、梶本淑子さんと対話しよう

広島市被爆体験証言者：川本省三、梶本淑子

協力：佐藤ひとみ、久保田 良枝、大瀧 美和、小山田 美仁、

門馬 礼音 / MC：高田 友紀

■絵本読み聞かせボランティア

募集：柳田 ありす、宮原 恵美

スタッフ：辰 小夜子、山田 さおり、田嶋 真紀、井上 由香、
奥本 由利子、小玉 裕美、中村 恵子、古江 麻理子、市村 みか

■広島原爆資料被爆石材

協力：嘉陽 礼文（広島大学研究員）

■平和記念資料館収蔵資料「消えた家族」

協力：高橋佳代（広島平和記念資料館 学芸課）

■ヒロシマピースボランティアと展示をまわろう、被爆体験

伝承者 榎原 泰一さんと対話をしよう

被爆体験伝承者：榎原 泰一

■被爆体験伝承者 石綿浩一さんと対話をしよう

被爆体験伝承者：石綿浩一

スタッフ：小山田 美仁 青谷 文子

■動画・写真撮影

水谷 元、本末 敬祐、奥田 剛、山本 早苗、堀内 崇子、宮原 恵美、
及川 誠、安藤 弘晃、西田 優香、CLiP HIROSHIMA



【設営・運営】

■世田谷会場

久保田 涼子、野元 綾希子、本末 敬祐、田嶋 真紀、堀内 崇子、
竹内 彩乃、門馬 礼音、坂本 晴香、中島 愛美、久保田 良枝、
及川 誠、及川 千尋、鈴木 康夫、藤井 麻衣、中川 宏哉、
アベケイスケ、宮原 恵美、小山田 美仁、大瀧 美和、大瀧 理紗、
山田 さおり、青谷 文子、古田 奈穂子、鈴木 康弘、辰 小夜子、
辰 綾乃、小玉 裕美、中川 一毅、岡口 幸司、山本 ともや、
新田 隆浩、新田 葵、岡口 幸司、西村 美佳、照井 雄太、
杉山 智春、奥田 剛、渡邊 亜衣莉、岡野 敏子

■広島会場

小川 歩美、小松 真理子、岡脇 由泰、呉原 八重、高橋 裕、
寺岡 武志、堤中 愛、野元 綾希子、脇田 渚、王 瑪麗、
久保田 芳文、Russel Chidya、CLiP HIROSHIMA

【共催】 広島大学 COC

【助成】

公益財団法人ヒロシマ平和創造基金 ヒロシマピースグラント、
平成 29 年度 公益信託 オラクル有志の会ボランティア基金

【後援】

広島大学、世田谷区、世田谷区教育委員会、広島市、公益財団法
人広島平和文化センター、中国新聞社、朝日新聞社、東京新聞社、
読売新聞社、共同通信社、FM ヨコハマ、NHK 広島放送局

【協賛】

株式会社ファンブ、株式会社 DMC 広島、日下医院、Palabra 株式
会社（※明記希望のみ記載）

【協力】

世田谷区立平和資料館、関東学院大学、デジタルハリウッド STUDIO、Peace Porter Project、とうろう流し実行委員会、HIROSHIMA SPEAKS OUT、みなとみらいごはん部、ひろしまジン大学、路上芸術祭実行委員会、CLiP HIROSHIMA、teppan kitchen SETAGAYA、(株)東京現像所 プロモート事業部、東京テアトル株式会社、世田谷区手話通訳等派遣センター

【Special Thanks 順不同 敬称略】

CLiP HIROSHIMA 石川 裕利、檜谷 美佳、江野脇 誠一
 広島平和記念資料館 学芸課・啓発課
 とうろう流し実行委員会 若狭 利康
 広島大学 COC、同 財務・総務室広報部広報グループ、同 東京オフィス、広島市東京事務所 杉浦 信人、広島市経済観光局 関東圏企業誘致センター 主幹 戸井 裕次郎
 広島大学関東ネットワーク代表(関東地区同窓会) 千野 信浩
 カルビー株式会社 社会貢献委員長 二宮 かおる
 自然堂 及川 学、Palabra 株式会社 山上 庄子、溝渕 萌、世田谷区立平和資料館 五十嵐 泰二
 IID 世田谷ものづくり学校 高山 勝樹、青山 典義
 株式会社 HASHIBA / 株式会社 単 原田 宗和、波多野 藍
 teppan kitchen SETAGAYA 菊井 翔太、坂口 千晴
 みなとみらいごはん部 里見 浩子、ひろしまジン大学、佐藤 広明、佐藤 真梨子、竹内 良男
 カフェオリエンタリー 吉田 純子、むさしの FM 市民の会 松岡 裕子、株式会社東京現像所 プロモート事業部 西村 薫、千葉 利昭、東京テアトル株式会社映像事業部 映画営業部 木村 正臣、株式会社ジェンコ 安部 幸枝、アーツカウンシル東京大内 伸輔、東京ボランティア・市民活動センター 野崎 勝也、森 玲子、神奈川大学 旭 馨、関東学院大学 鈴木 康夫、東北学院大学 其田 雅美、AGRI 黒田 千晴、HSO 浜井 道子



NHK 岩田 真治、富岡 亮
 学研 松本 義弘、宮田 昭子
 東京新聞社 東京中日スポーツ 三橋 正明
 中国新聞社 野田 華奈子、有岡 英俊、宮崎 智三、山本 祐司
 朝日新聞社 宮坂 麻子、青木 美希、宮崎 園子、張 守男
 毎日新聞社 和田 大典、布施 広、玉木 研二
 読売新聞社 星野 達哉 / しんぶん赤旗 染矢 ゆう子
 世田谷区 生活文化部 人権・男女共同参画担当課 若林 一夫、中島 智也、森 芳章
 世田谷区 都市整備政策部 都市デザイン課 清水 優子

<世田谷区立>

旭小学校、池尻小学校、三軒茶屋小学校、太子堂小学校、中里小学校、中丸小学校、駒繫小学校、多間小学校、三宿小学校、池ノ上青少年会館、池尻児童館、東山児童館
 世田谷区役所 太子堂区民センター、世田谷区立下馬図書館、世田谷区 中央図書館、せたがや がやがや館、東京都立久我山青光学園、目黒区烏森住区センター児童館、東京都障害者福祉会館、昭和女子大学 附属昭和小学校

広島ブランドショップ TAU 村上 祥平、有限会社エクサピーコ ジュリアーノナカニシ、小瀬古 智之、株式会社エルシャンの皆様、亀宝歯科医院、下嶋 哲朗、吉澤 卓、谷口 真里佳、福島正昭、原田 健一、長谷川 潤、甲斐 晶子、山岡 美知子、保田 麻友、西岡 幸子、若林 節美、栗原 明子、中西 巖、さすらいのカナブン

公益財団法人 泉美術館 山西 道子、靄田 茜、医療法人社団 光仁会 梶川 病院 梶川 恵美子、末丸 直子、看護部の皆様

継ぐ展を応援して下さった皆様